

議会報告会報告書

開催日時	平成30年4月20日（金）午後7時00分～8時50分		
開催場所	花岡地区市民センター		
出席議員	濱口高志、 橘 大介、 田中正浩、 楠谷さゆり、 西口真理、 植松泰之、 西村友志		
	司会進行者	植松泰之	
	報告者	楠谷さゆり	
	記録者	西口真理	
参加人数	48名		
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。		

松阪市議会議長 山本 芳 敬 様

平成30年4月24日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

議会報告会第4班

代表者 濱口 高志

【第一部の主な質疑応答・意見等】

問 カリヨンビルの購入について、かつての議論では、市は第三セクターにお金は入れないとの事であったが、その点は議論されたのか。借金の補填をするのか。

答 街づくり公社から特定調停の申し立てがあり、その中で市が買い取る事を条件に国、県が債務放棄する事とした。市としては、債務の補填ではなく、あくまでも外部に鑑定してもらった適正な価格でビルを買い取るとの認識であるとの答弁があり、そう理解している。

問 市民病院の問題は、松阪だけの問題ではない。急性期病床を減らしていいのかとの声も聞く。議会に特別委員会が作られたと聞くが、何を議論するのか。作られた理由は。

答 地域医療構想の中で、3病院が独立して経営していくのは困難とされている。市民病院の在り方検討委員会でも方向性が出されず、地域医療を守るために、議会としてもしっかりと議論をしていく。

問 中心市街地土地利用計画の駅西開発などは、今後どういう手法で、いつ頃どうやって進めていくのか。

答 具体的なものはまだ示されておらず、20年後のイメージしか提示されていない。

問 議員報酬が0.05%上がった。市の借金が増える中、減らしていくべきではないか。

答 確かに借金はあるが、借金の中身で判断した。公債費負担比率、実質公債費比率、経常収支比率とも改善しており、松阪市の財政は危機的状況ではないと判断した。

問 市民病院の合併の話がひとり歩きして、市民病院がなくなるのでは、との不安が市民にはある。自分の妻は市民病院のナースだが、公立という安心感を持っていた。職員もこの先どうなるのか不安である。

答 新聞報道で不安な方も多いと思うが、合併は一つの方法で決定したものではない。議会としてもしっかりと議論していきたい。

問 コミュニティバスの委託料もバカにならない。市の遊んでいるバスや人の活用はできないのか。

答 緑ナンバーが基本だが、山間部などで業者が手を挙げない、どうしてもできない所は白ナンバーということになる。貴重な提案なので、今後の検討に加えていきたい。

問 患者の立場から、市民病院がなくなるのではとの不安が多い。長い間世話になっている患者はどうなるのか。患者の不安をわかって欲しい。

答 今の時点では、議会として何も言えないが、万が一済生会と合併になっても、直ちに市民病院が更地になるという事ではないし、職員や患者は守っていく。

意見 合併か合併しないかの議論の前に、医療体制のあり方全体で考えるべき。自治体病院として、赤字か赤字でないかだけで議論すべきでない。最終的に採決をするのは議会である。責任ある議論をしてもらいたい。

問 介護保険がどんどん上がる。年金だけではやっていけない。

答 国民全体で支え合うシステムであるため、高齢化で介護される人数が増える中、保険料は上がっていくが、何とか、特に低所得者への配慮等、負担を減らす方法がないか考えていく。

第2部用【地域防災について】

【主な質疑応答・意見等】

問 災害時の避難所運営は市の職員が中心となってすべき。職員の配置や役割分担をして欲しい。

答 地域が主体となって、市は後方支援というのが大きな流れである。風水害は市の職員が対応できるが、地震時は間に合わないので、地域で対応できる体制作りが必要である。

問 災害時、花岡地区は花岡市民センターが拠点となるが、山室地区はきちんとした拠点が無い。山室地区にも対策本部となる拠点を作って欲しい。

答 2万人以上の住民がいる地域に拠点が一つしかない。問題があるのは理解している。懸案事項として承っておく。

意見 昨年の台風21号の時、伊勢、玉城で問題になったのは罹災証明の遅れ。被害に遭われた方への早急な手立てのために、松阪市でも罹災証明の発行訓練をしておくべき。海岸部の液状化現象対策も遅れている。

昭和57年以前の建物は基準が違うので危険である。診断に補助金が出るが、改築に

は費用がかかり過ぎて手を付けられない。今後の検討が必要である。

問 要支援者、身体の不自由な方、目の見えない方、老々介護の家庭など自力で避難出来ない方はどうすれば良いのか。

答 市全体の課題である。市としても要支援者名簿を作る予定であるが、市と地域が連携して取り組んでいかなければならないと考える。

問 防災行政無線が聞こえない。聞き取れるようにして欲しい。

答 そういう声はよく聞く。対応はしているが、いくら建てても聞こえない地域は出てくるのが現状。エリアメールが使えない方のために電話を使う事など、他の手段も検討している。

問 追々介護の家庭にも緊急通報装置を設置して欲しい。

答 設置基準等、検討していく。